

ぐりふぁん letter



Vol.
28
2014.7

INDEX

- ◆ みんなでつくろう！おひさま発電所 ～ おひさま発電所の進め方 ……2
- ◆ おひさま発電所合同研修会 ～おっきなすごろくつくりました！ ……3
- ◆ 2014総会報告 ……4
新理事ご紹介
- ◆ 自然エネルギー100%を目指すドイツの戦略 ……5
- ◆ IPCCの最新科学にみる気候変動の今 ……6
- ◆ 会員さん、こんにちは！ ……7
きょうとグリーンファンド協力店紹介
編集後記

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド



みんなで作ろう！

おひさま発電所

おひさまプロジェクトの進め方

2001年以来、毎年1～2ヵ所設置を進めてきたおひさまプロジェクト、順調に見えるのですが、実は設置する施設と出会うためには、たいへん苦勞をしています。

まず、ご紹介いただいたりお声掛けいただいた施設に、おひさま発電所を設置しませんかとお訪ねして、プロジェクトの内容を説明することから始めますが、設置に至らなかったことはたびたび。その理由の一つは、設置スペースの問題です。太陽光発電設備は、1kW当たり8～10㎡のスペースが必要ですし、京都市内であれば



陸屋根に設置した太陽光パネル
基礎や防水工事も大切です。

景観条例の規制もあって、公共敷地から太陽光パネルが見えないように設置することになっており、パネルの色も問題になったりします。傾斜屋根であれば、そこにパネルを並べるのですが、陸屋根であれば架台を組んで、ある程度傾斜をつけて設置することになり、新たに防水工事などが必要になることも少なくありません。そうすると、費用も嵩んでいきます。施設の増改築などのタイミングもあるでしょう。といった具合で、費用の準備も含めいろいろな条件をクリアすることが必要ですが、一番大切にしていることは、きょうとグリーンファンドのおひさまプロジェクトの考え方を理解し共感していただけるか、だと考えています。

おひさまプロジェクトは、関わった人たちの協力の賜物であるおひさま発電所が、次のおひさま発電所づくりに協力するという仕組みで進めています。具体的には、おひさま発電所で発電した電気を売って得られる、と見込まれる金額の一部を「おひさま基金」に一定期間寄付していただくものです。この「おひさま基金」の考え方は、2001年に1号機が設置された時からずっと続いています。ご寄付いただく期間は決まっていますので、2011年からは、毎年1～2ヵ所ずつおひさま発電所が「卒業」することになります。



屋根の材質なども考慮に入れ、
傾斜のある屋根にじかに設置した例

この仕組みは、2012年7月、再生可能エネルギーの固定価格買取制度が導入されてからも変わっていません。おひさま発電所の電気を、電力会社が高く買い取ってくれるこの制度の

原資は、消費者が払っている電気料金に上乗せされている「再生可能エネルギー促進賦課金」ですから、その収益をさらに再生可能エネルギーを広げるために活用するという「おひさま基金」の考え方を、私たちは大切にしたいと思っています。

さて、2014年のおひさまプロジェクトですが、今のところまだ設置する施設は決まっていません。昨年秋から3～4ヵ所が候補に挙がっては消えという状況が続いていますが、それぞれにプロジェクトを進められない事情があり、こればかりは致し方がありません。あきらめずに、探し続けることにしようと思います。お心当たりのある方は、ぜひ、ご紹介ください。よろしくお願ひします。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

おっきな すごろく つくりました!



昨年度の、各おひさま発電所スタッフを対象とした合同自然観察会に続いて、今年度は合同で「エコすごろく」をつくるワークショップを実施することにしました。

エコすごろくは、もともとあけぼの保育園の教材づくりワークショップからうまれたものでした。子どもたちにどうすれば「エコ」を伝えられるか、と頭をひねった保育園の先生たちは、子どもたちの生活からみた「エコ」を見事に切り取って、それを楽しいすごろくに作り上げたのでした。「エコ」にすれば進む、そうでなければ休んだり、戻ったり、とわかりやすく子どもたちに伝わります。もう一つ、模造紙の大きさが良かったみたい。模造紙で作った初代エコすごろくは、大人気で、すぐにぼろぼろ。子どもたちが修理をしながら、遊んでましたよ、というお話を聞き、きょうとグリーンファンドでは、テント地に印刷することを思いつきました。



その後、他の保育園でもワークショップを実施しましたが、実は教材づくりではありながら、先生たち自身の勉強にもなっていることに気がつきました。子どもたちに「エコ」を伝えるには、まず、先生たちが「エコ」を身につけなければなりませんから



ね。「自分自身の日頃が問われました。」といった感想が毎回寄せられ、なかなか奥深いワークショップとなるのです。

「きょうはえんそく!! かってきたおちゃをおかあさんがすいとうにいれてくれたよ」(1つもどる)とか、「おふろで、おとうさんがシャワーをだしっぱなしだったので、とめてあげたよ!」(3つすすむ)など、お父さんやお母さんたちも鋭く突っ込まれてしまいます。「エコ」は大人にも容赦がありません。年長組の子どもたちと一緒に作ってみたい、という先生もおられました。すごろくをつくるときに、「エコ」ってどうすることか、といろいろ考えますから、これからも傑作な文言が生まれることでしょう。



今後は、完成したすごろくを各おひさま発電所に順番に貸し出したり、自作してもらったり、と広げていきたいと考えています。早速、京都府センターからも使ってみたい、というお申し出がありました。すごろくづくりと一緒に、エコな暮らし方が、楽しく広がるといいなと思っています。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)



2014年 総会報告

2014年の総会が終わりました。

今年は役員改選の年で、新たに3名の理事さんが加わってくださいました。それぞれにきょうとグリーンファンドの活動を理解し、共感を寄せてくださっていますので、理事会での議論にも新たな風が吹くことでしょう。新旧合わせて15名の理事さんと2名の監事さんが新体制です。事務局は同じメンバーですが、理事会での活発な議論を期待したいと思います。

ただ、今年の活動に計画しているおひさま発電所の設置先がまだ決まっていないことは、ちょっと気がかりです。昨年からの募集をかけていましたが、期間中に応募はありませんでした。1か所ずつ心当たりを当たってみるしかなさそうです。できれば2カ所程度のおひさま発電所をつくりたい、と考えています。お心当たりがある方は是非ご紹介ください。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

新理事ご紹介

・・・ 沖 由憲 理事

幼児への環境教育は、持続可能な社会の実現に重要です。市民参加で保育園や幼稚園に環境学習拠点「おひさま発電所」をつくる活動に賛同しています。世界の太陽光発電システムの累積導入量が2002年末で131.2万kWp、日本はそのうち63.7万kWpで、近い将来過半数に達することは確実で、それが市民活動に支えられていることは特筆すべきことです。私は市役所時代、太陽光発電の普及、子どもや地域住民の環境活動の支援などの仕事に携わり、市民、NPO、企業、学校など多様なセクターが連携して環境活動を進める中で、様々な経験やスキルを学びました。グリファンの活動に敬意を表し、微力ながら協力できれば幸いです。

・・・ 小山 直美 理事

この度、理事に就任しました小山と申します。以前、京のアジェンダ21フォーラム事務局に勤務しており、きょうとグリーンファンドの皆様には京グリーン電力証書制度の創設等で大変お世話になりました。原子力に頼らず、市民一人一人が環境負荷の少ない生活への責任感を持って取り組んでいく「おひさま発電所」づくりは、今後、ますます重要度が増していくと感じています。微力ながら、おひさま発電所づくりの普及を皆様と一緒に進めていきたいと考えています。個人的には、ライフワークとして京都府和束町にて生態系の保たれた森の復元を目指して放置人工林の間伐作業を行っていますが、間伐材をエネルギー等に活用できないか? とも考えています。どうぞよろしく願いいたします。

・・・ 朴 勝俊 理事

はじめまして、きょうとグリーンファンド理事に就任させていただく朴勝俊と申します。関西学院大学の総合政策学部で環境経済学を教えております。長らく学問の世界で、環境政策手法、とくに環境税制改革の研究を続けておりました。福島事故以来、この国では各地の市民の手で、具体的な代案を一步一步実現させてゆくことが大切だと実感しております。そんな中、以前から実践を続けてこられているグリーンファンドからお声がけいただいたこと、お手伝いさせていただけることはまことに光栄です。どうぞよろしく願いいたします。



「Global 100%RE」という、自然エネルギーでエネルギー自給率100%をめざしている地域が、世界中に広がっています。現在、138のドイツの地域はネットワークを形成し、この目標に向かって具体的な計画を展開しています。人口140万人の大都会ミュンヘン市でも、2025年までに電力消費の100%を自然エネルギーでカバーする戦略を実行中だとか。ちなみに、人口147万人の京都市の2020年の目標は2.3%。市民として何ができるのか、を考えたいと、立命館大学経営学部/国際経営学科教授のラウパッハ・スミヤ ヨークさんにお話しいただきました。お話の内容は、IWJ Independent Web Journal [<http://iwj.co.jp/wj/open/archives/141350>] で見ていただけます。

石崎 雄一郎 さん

(京のアジェンダ21フォーラム)

5月23日 のきょうとグリーンファンド総会で、立命館大学経営学部教授のラウパッハ・スミヤ・ヨークさんによる記念講演「自然エネルギー100%を目指すドイツの戦略」を拝聴しました。

自然エネルギーへの転換が進むドイツをめぐるっては、コストや安定供給等についての様々な報道やプロパガンダがありますが、ヨークさんはそれらの論点を一つずつ丁寧に解説してくれました。

ドイツでは、「市民の手で地域を元気にしよう！」という思想により、自然エネルギー100%の自給率を目指す自治体が増え、100万人都市のミュンヘンも2025年に向けて取り組みを始めています。そこには高い目標を設定し、リソースとポテンシャルを把握し、綿密な道筋を描く経営戦略を見て取ることができます。経営学の専門家ならではの話しから、NPOや行政が苦手とする「経営的視点」の大切さを改めて感じると共に、「志」を持つヨークさんご自身の姿に感銘を受けました。

日本で外資系ビジネスに携わってきた一方、家族を持ち市民として暮らしてきたヨークさんは、ドイツへ戻り大学で教えていましたが、東日本大震災を契機に再び日本へ・自然エネルギーの普及も応援しようと思ったそうです。京都でも、ドイツに負けなように、市民の力で自然エネルギーの普及を盛り上げていきたいですね！

森 由美 さん

(京エコロジーセンター環境ボランティア)

昨今の異常気象を体感してCO2の削減は必要だと感じています。自然に寄り添ったエネルギーで生活できれば、次の世代にも負担は少なく安定して電気を受けることができ、水力・風力・バイオマス・太陽光などバランス良く自然からのエネルギーを供給しているドイツのお話は参考になりました。

集合住宅の我が家では太陽光の設置は難しくきょうとグリーンファンドさんのような活動を応援したり、節電を心掛けたりと自分の生活を見直すきっかけになりました。ありがとうございました。

鈴木 伸也 さん

(京都地域創造基金)

今回の講演を拝聴して、私自身がエネルギーについての知識がないために、難しく感じる内容もありましたが、ドイツの再生可能エネルギーについて丁寧にお話いただいたので、再生可能エネルギーについて興味を持つよい機会になりました。

特に、ドイツでは再生可能エネルギーの普及に地域や市民レベルで取り組んでいることは驚きでした。日本でも民間企業等が太陽光発電所を設けられるようになったことは聞いたことはあるけれど、それはどこか遠い話であり、やはりエネルギーは自分たちで作るものというよりは、勝手に与えられるものだと考えていました。

私のようにエネルギーへの関心が低い人にとっては、エネルギーを自分たちでつくるという選択肢があることさえ疑ってしまうかもしれません。しかし、既に世界のどこかでそれが始まっていることに気付くことができれば、エネルギーへの関心や捉え方も次第に変わってくるのではないのでしょうか。できない理由を挙げるのは簡単です、できることから始めましょう、とお話のなかでもありましたが、まさにその通りですね。

IPCCの最新科学にみる気候変動の今

～国連交渉の動向と日本政府の課題～

気候ネットワーク 伊与田 昌慶

2013年9月より、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が地球温暖化に関連する最新の科学的知見をまとめた第5次評価報告書を発表してきています。3つの作業部会の報告のポイント、国際交渉の動向についてご紹介します。

第1作業部会～自然科学的根拠～（2013年9月発表）

1880～2012年にかけて、地球平均気温は0.85℃上昇しました。この温暖化が人間の温室効果ガスの排出によって起きていることが、これまで以上に確かであると示されました。日本でも各地で最高気温の記録更新など、異常な気候が頻発しています。実際に発生した個々の異常気象と地球温暖化の因果関係を立証することは困難ですが、今後気候変動が進めば、極端な気候現象は増えてゆくと考えなければなりません。

この報告で特に印象深いのは、「世界のCO₂排出累積総量」の話です。いわく、大気中のCO₂排出累積総量が増えるにつれて、世界平均気温は上がっていきます。国際的に合意されている「工業化前からの地球平均気温上昇を2℃未満にする」という目標を一定の確率で達成するためには、累積排出量を790ギガトンC（炭素換算）に抑えなければなりません。ショッキングなのは、すでに私たちは2011年までに515ギガトンCほど排出してしまっていることです！今後の排出分を考えると、あと30年足らずで2℃未満の達成は難しくなってしまうのです。温室効果ガス排出削減は本当に「待ったなし」なのです。

第2作業部会～影響・適応・脆弱性～（2014年3月発表）

横浜で開かれたIPCC総会にて、第2作業部会の報告書が採択されました。報告によれば、すでに気候変動の影響が、陸・海のあらゆる場所で表れており、今後の気温上昇を2℃未満に抑えられたとしても様々な悪影響が起こるそうです（それ以上にならもっとひどい！）。そのため、温室効果ガス排出削減のように気候変動を止めようとする対策だけでなく、進行する気候変動の実際の悪影響を減じようとする「適応策」がこれまで以上に注目されました。

しかし、適応策をすることで排出削減努力が不要になるわけでは決してありません。最新報告では、気候変動がひどく進んでしまうと、「適応の限界」を超える可能性があることも示されました。例えば、植物の場合、通常は気候の変化に応じて生息に適した地域へ少しずつ種を飛ばすなどして移動するわけですが、気温上昇があまりにも急だと、移動が間に合わず、絶滅するリスクがあるのです。

第3作業部会～気候変動の緩和～（2014年4月発表）

温室効果ガスの排出削減と吸収源の強化を意味する「緩和」について扱う第3作業部会の報告では、2100年に大気中CO₂換算濃度が450ppmに抑えられれば、工業化前からの気温上昇を2℃未満に抑えられる可能性が高いことが示されました。そのためには、再生可能エネルギーなど低炭素エネルギーもしくは炭素ゼロのエネルギーの割合を大幅に増やす必要があります。

なお、報告では、原発も「低炭素エネルギー」の一つにあげられてはいます。しかし、1993年以降世界の発電量における原発の割合は低下していることや、稼働リスク、資金的・規制的リスク、廃棄物の管理問題、核兵器拡散の懸念など、様々な問題があることも明記しています。科学者は「どの技術を選ぶかは科学者ではなく社会が決めることだ」と言います。市民は自然エネルギーを選ぶのだということをしっかり意思表示し、行動を広げていきたいですね。

国連交渉の動向と日本政府の課題

IPCCの知見を踏まえて「2℃未満」をめざしている国連の温暖化交渉は、2015年までに全ての国が参加する法的枠組み（議定書など）に合意し、2020年から実施する予定です。6月上旬にドイツのボンで開催された国連会議では、米国や中国も新合意に向けて前向きな姿勢を見せました。IPCCの科学的知見を踏まえて、早急な対策を求める声も高まっています。

ところが、日本政府の温暖化対策は空白状態です。京都議定書第1約束期間（2008～2012年）のマイナス6%目標は森林吸収などを利用して辛くも達成しましたが、2020年、2030年の正式な排出削減目標はありません（2005年比で2020年までに3.8%削減というのは仮目標）。地球温暖化対策計画も未策定の状況であり、もはや異常事態です。世界第5位の大排出国で、先進国である日本政府こそ、IPCC最新報告に学び、高い排出削減目標の設定に向けて検討をただちに始めるべきでしょう。

今回は総会に初参加していただいた会員さんの感想です。まだ一度もお目にかかったことのない会員さんも総会やワークショップなどにもぜひ、ご参加下さい。

◆初参加の感想

きょうとグリーンファンドの存在を知ったのは、新聞記事でした。保育所などにソーラーパネルを設置するという事業をされているのを知って興味を持ち、また地元民でもありましたので、正会員となりました。しかし、活動には全く参加できず、レポートにもあまり目が通せていませんでした。今年は思い切って、5月23日の総会に初参加してきました。

総会後の立命館大学のラウパツハ・スミヤ ヨーク先生の講演では、ドイツにおける自然エネルギーの現状、問題点、取り組みなどがわかり、とても分かりやすかったです。

ともすれば、夢物語に終わってしまう自然エネルギー社会の理念を掲げ、実行しているドイツの取り組みを聞いて、環境先進国としてのドイツを再認識しました。また、環境問題に取り組む市民運動が政治レベルで作用し、市として自然エネルギー100%の取り組み目標を掲げている自治体の多さにビックリしました。日本も見習うべき点が多々あると思います。

一方で、懇親会で太陽光発電のエネルギー変換効率は、20年前とさほど変わっていないという話も聞きました。勿論、パネルは安くなり、電力固定買取制度も導入されました。しかし、買取価格は年々下がっているとのこと。

現時点で太陽光発電などの自然エネルギーだけでは、電力・エネルギー需要を支えきれないと思います。しかし、地道に取り組まれている皆さんの活動を影から支えることができれば幸甚です。また、来年も参加しようと思った帰り道でした。

・・・岡 篤史 さん

★ きょうとグリーンファンド協力店紹介 ★

きょうとグリーンファンドのパンフレットを置いていただいています。



vol.4 Vegans Cafe and Restaurant

<http://www.veganscafe.com/>

ヴァーガンズ カフェ レストラン は肉、魚、卵、白砂糖、乳製品を使わず、無農薬の玄米を中心にできるだけ自然農、有機栽培の野菜を使い素材本来の味を活かした心に、体に、地球に優しい料理を提供しています。

元繁盛焼肉店のオーナーが手がける菜食 (Vegans) のお店。

焼肉屋の店主がVeganに? そしてなぜ大人気焼肉屋店を手離してまで、菜食の道を選んだのか…それはHPで …。

写真の焼肉丼もピザもボリューム満点のスイーツもすべてvegetable 100% ♪目で見えて楽しんで、どうぞごゆっくりおくらしてくださいませ。

このお店は、京エコロジーセンターにも近く、スタッフやボランティアにも人気のお店です。

〒612-0029 京都市伏見区深草西浦町4-88
TEL&FAX 075-643-3922

編集後記

・ 秘密保護法、武器輸出3原則の事実上の破棄、そして閣議決定による集団的自衛権行使の容認と、日本の在り様が手の届かないところでどんどん変えられていくことに、重苦しさが募ります。決してあきらめずに、何とかしたい!でも、暑い。CO₂も増えてるし・・・。(K.O)

・ 国と国との戦い…といってもスポーツの世界に留めておいて欲しいです。世界共通のフェアプレーをお願いします。国民からのレッドカードが見えていないのかな? (Y.F)

・ ネタを探して、夏の季語からこの俳句に行き当たりました。「どう生きて流れればよい糸とんぼ」勝村茂美
私の場合は「どう生きて流れてもよい糸とんぼ」って感じですかね。(Y.K)

・ 原発事故から3年余、いまだ収束の目途すら立たないのに原発が再稼働されようとしています。そんな中、ニュースが…前号でご紹介したそうまグリーンアークさんのおひさま発電所プロジェクトがよいよ始動、近々寄付募集が始まるそうです。点灯式には京都からツアーを…と事務局では盛り上がっています。(S.K)

《 ぐりふあん日誌 》

2013年	4/2	第97回理事会
12/12 京都新聞取材(設置場所募集について)	4/7	清仁福祉会理事会代理人馬場智巖弁護士来室
12/13 2013年度ドレ市民団体への助成(環境分野)助成決定	4/9	気楽堂/森口さん、喫茶うずら/田中さん訪問、設置場所募集、自販機プロジェクトについて説明
12/18 NPO認定について市民活動総合センターと打合せ		
12/20 「認定NPOについて」講演:市民活動総合センター	4/19	事例報告 :「非核の政府を求める京都の会」総会シボジウム
2014年		
1/19 リアルブルーネおおさか点灯式に参加	4/21	再生可能エネルギーWG定例会議
1/24 ドレ市民団体への助成(環境分野)目録授与式出席	5/13	環境腹話術、見学会:陵ヶ岡保育園、 龍谷大学ゼミ学生来室、ヒアリング
1/31 京都府地球温暖化防止活動推進連絡調整会議出席	5/14	京都地域創造基金(鈴木さん)と打合せ
2/5 「自然エネルギー100%地域エネルギー自立に取り組む ドレ自治体」講演会参加	5/15	2013年度会計監査
2/6 京都全魚類卸協同組合訪問、自販機プロジェクトの件	5/19	まこと幼稚園訪問、おひさまプロジェクトについて説明
2/8 「キョウミン」講演会参加	5/22	まこと幼稚園現地調査
2/10 世光保育園訪問、おひさまプロジェクトについて説明	5/23	第98回理事会
2/13 第96回理事会		2014総会・講演会
2/15 未来のために協力:京エロセンター	5/24	自然観察会:京都府立植物園(妙林苑)
2/19 環境腹話術:妙林苑	5/26	再エネWG 定例会議
2/21 再生可能エネルギーWG定例会議 京都府地球温暖化防止活動推進連絡調整会議出席	5/29	自然観察会:京都御苑(大宅保育園)
2/26 「自然エネルギー100%地域エネルギー自立に取り組む ドレ自治体」講演会参加	5/30	龍谷大学学生ヒアリング
3/4 環境腹話術、おひさま学習会(講師:木原浩貴さん) :夢窓幼稚園、夢窓幼稚園に感謝状贈呈 槇島ひらぎ保育園訪問	6/17	環境腹話術・見学会:大宅保育園
3/8 「ババ(原発3.8京都 金子勝講演会)参加	6/20	京都創造基金 鈴木さんと寄付の件で打ち合わせ
3/11 実践報告:京都府消費者教育推進フォーラム	6/23	再生可能エネルギーWG定例会議
3/23 「五リブ 川・カス京都市の集い」参加	6/25	同胞の家訪問、おひさまプロジェクトについて説明
3/28 京都GPN幹事会に出席	6/26	同胞の家現地調査
3/31 京都地域創造基金 事業指定助成プロジェクト事業 助成決定		合同研修「エスごろうを作ろう」:陵ヶ岡保育園
	6/29	講演:西京原発プロジェクトのついで
	7/2	第99回理事会
	7/8	同胞の家 大森健三さん来室
	7/12	陵ヶ岡保育園 自然観察会(京大上賀茂試験地)
	7/17	第100回理事会

□ 寄付のお願い

おひさま基金への寄付は随時お受けしています。

寄付の方法:ゆうちょ振替をご利用下さい。

ゆうちょ銀行振替口座番号:00930-6-157817
加入者名:きょうとグリーンファンド

★2010年5月1日付で国税庁から認定NPO法人として再認定されました。
認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数 76

正会員 47 賛助会員 26

法人会員 3 2014/7 現在



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)



〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町21 事務機のウエダビル206
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org
URL ; http://www.kyoto-gf.org (火～金 13:00～17:00)

